第２回「立山黒部」世界ブランド化推進会議　議事録

日　時：平成29年10月20日（金）
16:00～18:30
場　所：富山県美術館

１　開会

２　挨拶（石井知事）

３　議事

【西村座長】
西村です。よろしくお願いいたします。お手元の次第に沿って進めていきますので、よろしくお願いいたします。
議題が３つありまして、（１）が「海のあるスイス」先進地調査報告で、県がスイスに行かれた結果を事務局から報告いただきます。その後、（２）の「立山黒部」世界ブランド化に向けたプロジェクトの進捗状況につきまして事務局から報告いただいて、それを基に委員の皆様にご意見、ご議論をいただきたいと思います。最後に、前回の会議において、１個１個のプロジェクトだけではなく、大きなブランドコンセプトを作るべきだという意見がありましたので、事務局の方で資料を用意していただいております。それを基に皆さんと議論いただくことになっております。

（１）「海のあるスイス」先進地調査報告

【西村座長】
それでは、まず、議題の（１）「海のあるスイス」先進地調査報告につきまして、事務局から報告をお願いします。

（事務局より資料３に基づき説明）

【西村座長】
ありがとうございます。現地でコーディネートされた山田桂一郎委員から補足があればお願いいたします。

【山田（桂）委員】
山田でございます。今ほど事務局の方からご説明がありましたが、あえてプラスアルファで私からお話しする必要はないと思いますけれども、全体を通して言えることは、あらゆる施策、事業、この地域が取り組んでいることに関しまして、説明にあった一番の根底には、住んでいらっしゃる方の幸せであったり、その地域社会の豊かさのためにどういう協力ができるのか、

表面的な雇用や経済効果の話だけではなく、住民のために環境を保全していく、管理していく、もしくはそういったところに改めて経済活動がどういう仕組みなのかといったことが全体の地域の経営に一体的に取り組まれているところがあるというお話をさせていただきたいと思います。

今回も、この後の議題の中にブランド化という部分があると思いますけれども、何をするにしても、それは何のためなのかというところが非常に明確になってくる。そのあたりを私達は非常に意識しなくてはならないことではないかと感じました。

【西村座長】

ありがとうございます。ご質問もあろうかと思いますけれども、議題がたくさんありますので、ご質問がある場合は、事務局の方に後でお話しいただきたいと思います。

（２）「立山黒部」世界ブランド化に向けたプロジェクト進捗報告

【西村座長】

次の議題にいきたいと思います。（２）の「立山黒部」世界ブランド化に向けたプロジェクトの進捗報告につきまして、事務局から説明いただきたいと思います。

（事務局より資料４に基づき説明）

【西村座長】

ありがとうございました。プロジェクトの進捗状況を報告していただきました。ここから議論を始めるのですが、多岐に渡りますので、まずは何人かの委員にご発言いただき、その上でフリーディスカッションするという形式で進めていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。まず、田村委員に全体に対してコメント等いただければ。

【田村委員】

ご説明ありがとうございました。いろんなプロジェクトがあって同時進行でやっていかなければいけない訳ですけれども、すぐに着手するものについて色々と前進が見られているのは大変よいことだと思っております。その中で、短期という位置づけになっているけれども少し実際に成果が出てくるまで時間がかかるものとしては、宿泊施設の整備であるとか、滞在プログラムの充実というところがあるわけですが、宿泊施設にいたしましても滞在プログラムにいたしましても、多様性を確保するのは非常に重要なことだと思っております。外国のお客さんがどんどん増えてきております。そういう意味では、山のサービスはこんなもんだと昔から続いていて、たぶん国内のお客さんもそれに慣れてきている訳でありますが、サービスのイノベーションというのは、どうしてもずっとそこに居る人だけだとなかなか起こらないといいますか、どの分野でもアウトサイダーであるとか異業種からの参入によってイノベーションが行われるということがありますから、少し多様性を確保していくというところで、いろんな方々がいろんな提案をしてその品揃えを増やしていくことが非常に重要だと思います。

滞在プログラムに関して言うと、今朝というか、お昼に立山の方にも行かせていただきまし

て、そこで立山カルデラ砂防博物館の飯田さんもおっしゃっていましたが、ガイドさんによって導かれるような体験、いろんなツアーは非常に重要なことで、そうすると、ガイドの方を育てていくというのが非常に重要ですが、これも時間がかかることです。すでにナチュラリストの養成に着手しておられるということではありますが、外国の方の対応も含めて考えると、より幅広くリソースというものを求めていかないといけないことになるので、その辺は非常にこれから有望な分野でもありますし、力を入れるべきではないかと考えております。

関電ルートの話は、少し、色々と技術的な話もありますから、また後程、触れさせていただきたいと思います。

【西村座長】

ありがとうございます。山のサービス、ガイドツアーに関するコメントでございました。それでは、今日はテレビ会議で出席いただいております森トラストの伊達委員から何かありますでしょうか。

【伊達委員】

こんにちは皆さん。東京からになってしまって申し訳ありません。今、会議を聞かせていただいて、途中で音声が途切れてしまったんですが、最初にあった「海のあるスイス」の先進事例についてはもう議論が済んだのですか。

【西村座長】

今日は議論をしないということで、ご意見のある方は事務局に個別にしていただくことになっています。

【伊達委員】

少し感想をお伝えしたいのですが、３ページ目ですけれども、今、田村長官から宿泊施設の多様性というお話があって、それも必要だと思うんですが、一方で、この資料を見る限り、恐らく大理石張りのすごく高級な雰囲気ではなかったと思うんです。実際に現地に行かれた方はいらっしゃいますか。

【西村座長】

高級さはどうですか。大理石張りのようなものではなかったのではというご質問です。

【中谷観光戦略課長】

ご指摘のとおり、クルムホテルは非常に室内はシンプルで、眺望等は良かったのですが、必ずしもすごく豪華ということではなかったと思います。

【伊達委員】

おそらく施設的な豪華さにこだわられているのではなくて、自然豊かなエリアの中で素朴だけれども雰囲気が良いとか、サービスのあり方がちょっとしたことに気を使ってくれるといったことで高級な雰囲気が出ているんだと思うんです。そういう意味では、高級なものを作るこ

と自体がすごくハードルが高い訳ではなくて、見方とか考え方を変えればできるんではないかと思うんです。

もうひとつ質問ですが、スイスの事例は非常に面白いですし、このレポートではいろんな発見が詳細に記載されていてとても良いと思ったんですが、その上で、ではこのスイスを事例にした場合に、今の立山黒部では何が足りていないと調査団として思われたか。どういったものをリストアップされたんでしょうか。

【中谷観光戦略課長】

１つは、先ほど田村長官のご意見にもあったかと思いますけれども、まさに多様性への対応というところかと思います。非常に多様な宿泊施設もそうですけれども、例えば、色々なアクティビティも含めまして、本当に多様なものが揃っていると思いました。あと、本当に滞在型だったと思っておりまして、今のお話に重なるんですが、宿泊施設もそうですが本当にいろんな年代の方々がいろんな方法で楽しめるような形になっていると思いまして、後ほどのコンセプトのところにも掲げておりますけれども、そういった方向を我々も目指していきたい、そのために滞在プログラムの充実等に取り組んでまいりたいと思っているところでございます。

【伊達委員】

滞在型、滞在施設が多様であるというのはひとつの答えかもしれないのですが、施設があれば良いだけではないと思うんです。それ以外の滞在する時間、２泊３日ならば70何時間ある訳ですけれども、その時間を町全体がどうサポートしているのか、見た目や商品、仕組みも含め、そういったものが大切だと私は思うのですが、それで立山に足りないところは何か、もう少し深堀された方が良いかと思います。

【石井知事】

おっしゃるとおりで、例えばあのツェルマットの場合は大体短くて１週間位が普通で、２週間位いらっしゃる方が多い。それから非常にリピーターが多くて、立ち去る時に「また来年もここに来るよ」という方がすごく多いようです。私が感じたのは、もちろん施設も立派なものが色々とありますけれども、ホテルの支配人や従業員の方が色々気配りするということだけではなくて、町全体が、ツェルマットにとっては観光が唯一といってもいい産業だと思うんですが、世界各地から来る方々にいかに心地よく過ごしてもらうかということにすごく気配りしていると思うんです。そういう点が、例えば、ホテルやコンドミニアムだけではなくて、一般の住宅でも窓辺や入口に花壇が置いてある。村長さんに「これは村で補助金でも出しているんですか。」と聞いたら、「いやとんでもない。みんな自主的にやっているんだ。」と。観光客に楽しんでもらい、また自分達も楽しむ。みんなで年に１回くらいコンテストをやって、自分がグランプリを獲れたというのも誇りになっている。そういうお話を聞いて、これはもうごく一例ですけれども、町や村に住む皆さん一人ひとりが観光、広い意味での観光、そこに来る人たちの満足度を高めるためにみんなが参加して、役割を果たしている。そうすごく感じました。

そういう意見は率直に言って、我が富山県でもまだまだだし、日本の観光地でもその水準にはなかなかなっていないかと思います。そういったことも含めて、今、伊達委員がおっしゃったとおりいろんな課題があるんですが、私ども富山県だけではなくて、地元の立山の人や、あ

るいはもちろん観光を生業とされている皆様、観光業もいろんな方がおられますから、こういった皆様と各論について色々とご相談しながら進めていく。今こういう課題がありますとさっと申し上げればよいのかもしれませんが、いろんな行政の進め方として、なるべく認識を共通にしながら進めていきたいと思いますので、ご指摘の件は大変貴重なお話でそのとおりだと思いますから、いろんな業種で考えている問題意識を打ち出して進めるやり方も一つだと思いますが、今のように少し個別に問題点を積み足しながら、随時進めていきたいと思います。

【西村座長】

今日は環境省の長野自然環境事務所から資料が提出されておりますので、中山オブザーバー代理のほうからご説明いただきたいと思います。

【中山オブザーバー代理】

環境省長野自然環境事務所の中山でございます。委員の皆様方には、昨日は黒部、今日は立山をご覧いただきました。私も一緒に回っていたのですが、私はこの公園の管理者でございまして、むしろ来ていただきまして大変ありがとうございますと、この場を借りて厚く御礼を申し上げたいと思います。このような機会を設けていただきました石井知事をはじめ富山県の皆様に感謝しております。どうもありがとうございます。富山県さんからご要望があり、環境省として対応をどのようにしてきたか話をしてほしいということだったので、簡単な資料を用意させていただきました。

まず、資料１をご覧いただきますと、１に「国立公園満喫プロジェクト」と書いております。ご承知のとおり、環境省では国立公園満喫プロジェクトを推進しておりまして、外国人の皆様方を含め、たくさんのお客様に国立公園を訪れていただくことで国立公園のレベルを上げてまいりたいということで、今、各地で事業を行っております。特に、８公園のモデル地区がございまして、そこでやっているのが主な事業ですが、大変残念なことながら、中部山岳国立公園については、富山県さんと岐阜県さんから要望があったんですけれども、モデル地区にはならなかったという経緯がございます。その理由は、最終的には当時大臣であった丸川大臣主導で決める際に、国立公園全体としてやっていく体制があるところということで、中部山岳の場合、４関係県がございますけれども、２県からしか要望がなかったということで落ちたというのが実態と思っておりますが、我々もその辺の事情が細部まで分からなかったので、情報提供等おろそかだったかと思って率直に反省しております。ただ、今回、冒頭にありますように、モデル地区８公園に準ずる３公園として位置付けられることになり、ページをめくっていただきますと、満喫プロジェクトの委員会資料からですが、第５回の満喫プロジェクト有識者会議で、８地区だけでなくて他のところでもやらなくちゃいけないと。というのは、８地区は比較的外国人のお客様が少ないところが多く、１から頑張らないといけないところがございまして、委員から、むしろ実際に外国人旅行者が多い富士箱根伊豆や支笏洞爺、中部山岳、これトップから１、２、３ですが、これらのところについては、選定８公園に準じた取扱いをして事業を展開することで、外国人のお客様を増やせるのではないかというご指摘がございました。ちなみに、４番目が瀬戸内海、５番目が私が管理しております上信越高原ということになります。このような形で非常に多いところでございますので、そういう扱いをしたらどうかという話がございまして、最終的な結論として、中部山岳については、満喫の８モデル地区に準ずる扱いと

して今後対応していくように本庁から指示がございましたので、これからどんどん取組みを進めさせていただきたいと思っております。これを踏まえまして、当事務所では、もともと全体でやるというのは無理だろうと、本庁の方から重点地区を設けてやりなさいという指示もございましたので、上高地、乗鞍、平湯等の南部地区と、それからここでご議論いただいている立山黒部の２つの重点地区を設けさせていただいて、それぞれで作業を進めるということを考えております。南部地区におきましては、こういった議論をする協議会組織を立ち上げようと考えておりますが、立山黒部はこの会議で様々なご議論をされておりますので、それを見守りつつ、今後の対応ということで、まずというところに書いておりますが、滞在型のエコツーリズムプログラムの充実について支援していくことを議論の中心に据えていきたいと考えております。28のプログラムの中に、滞在プログラムの充実、先ほどからも話題になっておりますが、そのプロジェクトについて、若干のお金も投入しながら下支えしていくと考えてございます。今後、来年度に向けて様々な動きがあると思いますが、まずはここから始めていこうと考えております。

あとはおまけですが、ページをめくっていただきますと、登山道標デザインの統一というのがございます。昨年、満喫を外れたときに、落選したところについてもソフト予算を若干あげるという話がございまして、それを使って、北アルプス全域について、登山道の道標デザインを統一することで調整させていただいております。我々環境省が整備するだけではなく、民間も含めて全てということで、こげ茶色の黄色アイキャッチのデザインをほぼ決めさせていただいたところで、今年の環境省直轄事業として、富山県さんへ施行委任させていただいている部分についてはモデル的に実施いただいているところでございます。

次のページに地獄谷火山ガス対策等とございます。今日行っていただいた室堂では火山ガスの対策をしておりますが、今年、これが相当大きな仕事であったので出させていただいています。今日はちょっと行けなかったのですが、池の向こう側に火山ガスの濃いところがございまして、そこで対策をしています。

あと、今回、この会議でもよく話題になっております積雪期については、春と秋についてルールを決めさせていただいて、これは関係の33団体の皆様方のご協力で、我々事務局として立山町さんと一緒にやらせていただいているんですが、ルールを決め、その時にポールを立てたり臨時のキャンプ場を作ったりと、様々なことをしながらなんとかやっております。

１枚目に戻って、登山道の話が出ていましたが、自然公園整備ということで、公共事業、環境省直轄事業として、主に富山県さんに施行委任、お金はうちの方で出させていただいて、県の方で頑張っていただくという仕組みで、今年、補正も含めて４件実施させていただいております。総額が１億800万円。それから、交付金で富山県事業に2,500万円出させていただいて、実施いただいている状況でございます。あと、トイレについて、各種維持管理業務等々ございまして、約１億、２億円まではいかないくらいのお金を投入させていただきながら事業を進めさせていただいているところでございます。報告は以上になります。

【西村座長】

ありがとうございます。環境省でも色々と施策を実施いただいていると。

さて、中身に入る訳ですが、今日の資料４で中心的に分量が割かれているのは関西電力の黒部ルートのことですので、まず議論を進めさせていただきたいと思います。この旅行商品化に

つきましては、報告にありましたけれども、安全対策が論点となっておりました。関西電力さんからは、法令に基づいて責任が伴うのでその辺は慎重にしたいというご意見をいただいております。この点について、今日は国土交通省から鉄道事業課の石原課長においでいただいておりますので、先ほど、上部専用軌道の紹介がありましたけれども、資料４の12ページあたり、旅行商品化のところで、これが鉄道事業法の許可がいるのか、該当するとすれば安全性のレベルが格段にハードルが上がるんじゃなかろうかということをお伺いしたいと思います。

【石原オブザーバー】

国土交通省鉄道事業課長の石原でございます。ただいまご紹介いただいた、移動していただく部分、上部専用軌道につきまして、これが鉄道事業法上の事業許可が必要かどうかというところが一つの論点となっているということでありましたので、当課の方で検討したところでございます。これは鉄道事業法に基づきまして、他人の需要に応じて、鉄道で旅客又は貨物の運送を行う事業を行う場合には許可が必要ということになるんですけれども、実際には、他人の需要に応じた輸送であるのか、そもそも輸送する手段が鉄道と言えるようなものなのか、あるいはその運行形態に事業性、事業性というのは主に反復継続性があるかというところですが、こういったところを総合的に勘案して、許可の要否を判断する訳ですが、資料の12ページの赤囲いにありますような条件の下で行われるものであれば、鉄道事業の許可は必要ないと判断したところでございます。以上です。

【西村座長】

ありがとうございました。今ほど石原オブザーバーがおっしゃったご判断ですが、これについては、今月11日にワーキンググループがあって、渡辺委員もご参加されたと聞いておりますけれども、何かコメントありますか。

【渡辺委員】

桜美林大学の渡辺です。座長からお話があった点について、私から少しお話をしようと思います。今、石原課長の方から鉄道事業法の適用はないのではないかというご見解がありました。それは一つのポイントで、もう一つは、私はかつて旅行業にしばらく従事しておりまして、その観点からもお話をしようと思いますが、この資料の中でちょっと気になりましたのは、これまでの見学会で、募集ではないお客様をお運びする場合の安全性のレベルと、今度、12ページに提案されているようないわゆる旅行商品、企画旅行だと思うんですが、こういった場合の鉄道をオペレートされる方の安全性に関するレベルが違うのではないかというお話があって、これまでの会議で議論されていると感じました。これについても改めて考えてみたんですけれども、実際、これまで約20年間無事故でやってこられているという事実があると伺いました。それもさることながら、実際、関西電力さんが、お客さんを何らかの形で運ばれる、理由は何であれ、その時に使われた安全性の配慮に違いがあるとは私はちょっと思えないです。これまでの関西電力さんのもっぱら募集ではないお客様に関してこれまでやってこられた安全配慮ということであるならば、それをこの先も適用されれば良いのではないかと私は思いました。

もう一つですが、例えばこの12ページの場合ですが、こういった旅行商品ができて販売するのはおそらく、右の方の図にありますように、それを取りまとめた旅行業者かと思います。私

の経験から、旅行業者が旅行商品、企画旅行を作る場合ですけれども、その中に入れる運輸機関、宿泊機関は責任を持って旅行業者が選定しなければなりません。特に、昨今、バスの事故等がありまして、この辺はけっこう強く指導されている部分ではないかと思います。つまり、旅行業者として、お客様に提供しうる、例えば、安全性、もちろん満足度というのもあるんですが、そういったものが担保されているものを使って旅行商品を作りなさいというのは旅行業法の精神でもありますし、こういった指導も昨今出てきていると思います。それで、具体的に旅行業者がそういった判断をする場合ですが、どうするかというと、もちろんそれは使っているバス会社、旅館の経営状況、財務状況というのもありますが、やはり旅行業者の現場担当で一番気になるのは事故記録があるかどうか。これが全くないということは、企画旅行を造成する、企画販売する旅行業者からすると非常に強い事実であります。もちろん、実際、旅行者からのフィードバック等もあるんですが、今のところ過去の事故記録がないオペレーターである、この言葉が適切かどうかは分かりませんが、非常に大きい要素だと思います。

くどくなりましたけれども、こういうことを考えますと、今回、指摘されているような安全性のレベルですが、既に関西電力さんがこれまでおやりになっている部分に関しては、例えば、いわゆる旅行業法に基づいた企画旅行として販売する旅行業者の目から見て、大きな問題があるとは今はちょっと思えないのではないかと。これは一般論としてですが、そんな気がいたしました。以上です。

【西村座長】

ありがとうございました。ここまでの議論をお聞きになって、今日は関西電力株式会社の月山委員代理がご出席くださっておりますので、何かご意見等あればお願いいたします。

【月山委員代理】

関西電力の月山でございます。今日は、社長の岩根の代理で出席させていただきました。よろしくお願いいたします。

ご指摘いただきました黒部ルートの旅行商品化について、安全対策の必要性についてのご意見かと思います。安全対策については、私どもの考え方を申しますと、まず、原則、黒部ルートにつきましては、ダム発電所の保守工事用の設備であるというのが大前提で、その設備の作りこみ、安全水準等の実施の必要性は、法令上は鉄道事業法、それから労働安全衛生法の安全配慮基準を満たすということで作った設備でございますので、工事関係輸送に必要な最小限の設備の作りこみが出発点となっている現状でございます。ですから、工事関係者と言いますと、基本は安全についていろんな知識も経験もある、現場についても周知している、いろんな教育も受けているという前提での設備となっているというのが出発点かと思います。現行の見学会やっているじゃないかという話かと思いますが、先ほどの社客と同じでございますけれども、発電事業にご理解を深めていただくという目的に限って、当社事業の一環として、当社の責任と判断で安全を確保できる範囲、いろんなソフト・ハードの対策をやる中で実施しているというものでございます。しかも原則、全体として、私どもとしては、有償ではなく無料でやっているところでございます。見学者の方には、安全確保のために当社の指示に従って行動いただくということ、あるいは突然の中止にもご理解をいただく等の前提で参加いただいているということでございます。

ここで、検討の遡上に挙がっている観光を目的とした旅行商品ということでございますが、いろんな考え方、発言があると思います、ただ、パックについて、一般の観光客、全体としてやはり相応の料金を支払う際、この黒部ルートはどうかというのはあると思いますが、全体としてはパック全体に対して対価を払ってご参加されるという中で、当然それに合った安全確保がされているという認識でいらっしゃると思います。先ほどお話のあったような旅行会社等を含めた契約時の安全確保義務ですとか、これをどう参照するかと、適用は先ほどのお話ですとないということですのでいろんな考え方も成立するかもしれませんが、それを踏まえた社会的責任ということを考えますと、やはり安全というものに対する相応の期待というものは、有償のパッケージ旅行の中で相応のものが期待されてくるのではないかと私どもは判断しているところでございます。そうした中で、一般の観光客をこの中にご案内することにつきましては、いろんな限定条件を付ければいいじゃないかという話もありましたけれども、これは免責条項を作るという話かと思いますが、民法上の一般の原則ですと、人身に係るようなものは免責条項をいくら作っても、いざ裁判となるとひっくり返ることがままあると聞いておりますし、その辺りは旅行以前に、契約、民法上の考え方、不法行為となるかは、私も法律の不勉強等はございますけれども、そのような考え方を念頭におきますと、必要な安全対策をまず講じた上で、旅行商品化ということをぜひ考えていきたいと考えております。

もう一点だけ補足させていただきたいのですが、実は、この黒部ルートにつきましては、平成８年に、そもそも、鉄道事業法の第一種の旅客を念頭に置いた設備改造もやったらどうかという検討を、実は富山県さんとの間で勉強会等をやった経緯がございます。その時、いろんな設備対策、ハード・ソフトを含めて対策を検討いただいたということでありますが、これやはり、先ほど国交省からもお話がありましたが、鉄道事業として旅客をメインにするということを念頭に置いた対策でございましたのですが、その時の仕上がりのプランといいますのは、総額にして800億円、期間も16年かかる、相当巨大なプロジェクトということでございました。我々は、今回、そのような提案をしているつもりはございません。ちょっとまだ詳しく詰めていないところはございますが、トンネルの中、削面、分からないところもありますが、そこを気にしますと数十億程度、期間も最低で３年から５年以上という形で見積もっているところでございます。見積もりですので前後差異があるかもしれませんが、その程度の規模、ある程度リーズナブルに、圧縮して考えているところでございます。その中で、旅行商品化ということを、安全を前提にしたいという当社の思いをご理解いただきたいということでお願いいたします。

【西村座長】

ありがとうございます。新しい情報も出していただきました。この点に関して、何かコメントあれば。

【髙木委員】

資料の８ページでございますが、昭和31年ごろ、関西電力さんが黒四を掘っていたときは、沢山の工事犠牲者も出ました。私は、県立中央病院の隣の小学校だったんですが、運動していると総員退避というのがあり、皆教室に戻る。そこへケガ人を運んだ黒四からのヘリが降りてくる。救急車が来る。このように、富山県、黒部市、立山町、いろんなところがこの工事に関して協力し、今日があるという原点を思い出していただきたいと思っております。そういう中

で、関電さんも色々とご尽力されて、最初はちょっと無理だと言っていたところから、平成８年に1,000人、さらに2,000人にしていただき、27年にはパノラマ展望ツアーの運行までこぎつけた訳でございます。旅行商品に関しては、今、月山常務からお話があったことも、十分、納得がいく部分もあるんですけれども、であるならば見学枠をもう少し増やせないかと。これですと、何も特に工事をする必要はありませんし、何より不思議なのは、社客と書いてありますが、VIPですよね。関電さんにとって重要なゲストを3,000人もお送りしているので、見学者は2,000人でというのは、ダムの排砂などいまだに色々ご協力している地元に対して、地域に根ざした企業を標榜される関電さんとしては、ちょっとあまりにも片手落ちではないか。まして、安全性は社客の方が重要ですよね。大事なお客さんを呼んでくるんですから、万々一があったら大変なことですが、おそらくゲストの人には言っていないと思うんです。そういうことも勘案すると、少なくとも土日ぐらいは、コストがかかればそれこそ県もいわゆるコストについて相応の支援をするとか、いろんな対策もあると思いますので、開放できないかと。そうすれば、社客と同じぐらい、今の2,000人が、3,000人、4,000人ぐらいは行けるようになる。また、抽選も、３ヵ月かかるのをもう少し短縮していけないかとかそんなことをぜひ考えてほしい。県民として、あるいはこの地域に住む者として強く思います。以上です。

【西村座長】

ありがとうございます。はい、月山委員代理。

【月山委員代理】

月山でございます。髙木さんご意見ありがとうございました。私どもも富山県さんとの関係という意味では、本当に同じ思いでございます。黒部ダムはもちろんでございますが、前身の会社から引き継いだ電気事業を含めまして、これだけの電気事業関係の事業を富山県さんの中でやらせていただいている中で、富山県さんとの共存共栄をどう図るかというのは、これは一番、経営の観点に個別に据えたいものだと思っていますし、先ほど、許可条件の話もありましたけれども、色んなご意見があることも承知していますし、実は我々も、いろんな意見がありますが、そんな話は乗り越えて、ぜひ、富山県さんと共存共栄の関係を、この旅行商品化についても、どう具現化していくのかというのが、私がこの場に参加させていただいている一番大きな原点と思い、そのつもりで参加しているところでございます。そういう意味で、例えばということで、公募枠、見学者の見直しという話も今ご提案いただいたところかと思います。資料にも載っておりますけれども、これについても、ぜひ、私どもも検討してまいりたいと思っておりますが、これはやはりセットものかと思っております。セットものというのは、先ほど申しましたように、安全対策をした上での旅行商品化ということと、３年５年、それ以上かかるのであれば、その手前で、公募見学会をどうするかということをセットでぜひ考えていくことかもしれませんし、その辺りも県等々とぜひしっかりご議論させていただき、検討してまいりたいと思います。例えば、具体的にご提案いただいている中でも、ここに書いていただいております先着に見直すとか、そういう話についても検討の可能性が大いにあると思っていますし、その辺りも、具体的な実務を含めて、どういう課題があるのかをぜひご相談させていただけたらと思っております。

【西村座長】
ありがとうございます。江崎委員が退席されるということなので、少し発言いただけたら。

【江崎委員】
この後の議論もすごく興味があったんですが、滞在プログラムの充実についてもそうなんですが、今回、私、心配しながら立山の方にも行かせていただいて、結構、富山に今まである素材を使っていくときに、玄人ものが多く、それがすごく魅力になっていると思うんです。トロッコ体験も山のこともそうなんですが、来られる人のハードルを下げるということだと思うんです。自分の周りの何かに当てはまるかと考えたら、例えば、漁船に漁師を乗せるときと海に来たことがない人を乗せるときを考えると、明らかに対策しなければいけないことが違うと思うんです。ですので、安全のレベルが変わるというより、来やすくなればなるほどある程度考えなければいけないことがあると思うので、これから前向きにいろんなことを考えていく中で、当然、来ていただく、よくペルソナと考えたりしますが、それも同じように今後考えていく必要があるので、皆で前向きに考えていただいたらよいかと思います。月山さん頑張ってください。

【西村座長】
ありがとうございます。可能性があるかないかという議論だけではなくて、本当に来る方、どういう人がくるかということも非常に重要だという意見ですけれども、この点に関して、他の委員の方々もご発言ありますでしょうか。はい、知事の方から。

【石井知事】
月山さんに伺いたいのですが、以前、平成８年ですか、一般開放すると15年くらいで800億円と確かに伺っているんです。今、その後、６月１日にこの推進会議がスタートして、ワーキンググループもやり、この全体会議も２回目ですが、その間、私が知っているのは安全対策がやっぱり必要だと、一般開放して旅行商品化するにはどれくらいの安全対策が必要か、期間がどれくらいかかるかということを詰める必要があるから、したがって、２回目の全体会議をちょっと少し遅らせてほしいということで、今に、10月になったんですね。ですから、多分関電さんはこの間に色々詰められて、さっき少なくとも15年とかではなくて、３年から５年ぐらいの安全対策がいるということだから、例えば費用がどれくらいかかるとか、大体はじいておられるんじゃないですか。安全対策にいくらお金がかかるか、まずは、そのことを先に確認させていただきたいのですが。

【月山委員代理】
すみません。私の発音が悪かったかもしれないですが、数十億程度ということでございます。先ほど申しましたが、トンネル内の巻立とか落盤対策ということになりますと、地質を触ってみませんとどれくらいの対策がいるかどうか見極めがつかないので、幅を持って申しておりますが、50より上の数字という感じだと思います。

【石井知事】

そういうことは分かりました。そうすると、50億よりちょっと上の数十億円かかって、かつ３年から５年くらいは工事期間がいるんじゃないかというのが、これまでの検討結果でいらっしゃるんですね。

【月山委員代理】

これは最低でも３年から５年以上はかかるということでございます。

【石井知事】

それで、髙木委員、渡辺委員も言われたように、率直に言って、関電さんほどの超一流の企業が大事なお客様を今の安全対策で通していらっしゃる、しかも、数人とか数十人とかではなく年間3,000人も通していらっしゃる。それも20年間。そうなると、新たな安全対策がどうして必要なのかよく理解できないんです。ただ、念には念を入れて、関電さんの責任でおやりになることまでどうこう申しませんが、ただそれを理由にして一般開放がどんどん遅れていくのは非常に困るので、ぜひそのへんは大きな判断をしていただけないものかと思うんです。現実に一般公募枠も、担当課長からご説明申し上げたように、今、一般公募でやっているやり方をもっと合理的にして、基本的にその分で料金を取るんではなくて、ガイド料とか保険料という考え方でいいんですから、鉄道事業課長さんもおっしゃったし、今の法令の面で特別何か抵触している部分もないと思うので、少なくとも今の枠から若干プラスくらいのものは、率直に言って来年すぐにでもやってもらって、もっとたくさんの人を、お客さんのニーズがあるということになった時に、念には念を入れて安全対策を関電さんがおやりになりたいというのを止めるつもりはありませんが、そういう運びでお考えいただく訳にはいきませんか。

【月山委員代理】

それも含めてご検討させていただきたいと思います。要は、安全対策も含めた、先の話と手前のものとセットもので考えたいというのが私どもの考え方。「これはこれ」と議論を分けて考えるのではなく、この点はご理解いただけたらありがたいと思います。

【石井知事】

ありがとうございます。

【西村座長】

よろしいでしょうか。ではこのお題はここまでということでよろしいですか。それ以外のことに関して、このプロジェクトの中で何かご指摘いただきたいと思います。まず、モンテベルデ委員から、欧米での認知向上ということもありますので、コメントいただければ。

【モンテベルデ委員】

モンテベルデと申します。富山県に来る観光客からの目でお話ししたいと思います。今、色々議論、説明を聞かせていただいて、ミシュランの三つ星をいただいたことはおめでたいことです。日本人がミシュランの三つ星がどれだけ大切か知っているか分からないのですが、僕は大学生のときから意識して、20代の時にミシュランのグリーンガイドを見ながらヨーロッパ全体

を周りました。比較するために、そこに行く前に三つ星のところを地図で見て、その国に行けば、必ずそれを見た。だから、外国人の、欧米人の考え方からすると、三つ星をアルペンルートがもらったことはとても大切。なぜもらったか、僕は多分「体験」として三つ星をもらったと思うのです。その体験がとても珍しく、世界でこんなタイプの体験はできない。ですから三つ星をいただいたと思うんです。「景色が素晴らしい」というのはたぶん一か所だけで、黒部ダムが二つ星。あそこは本当に景色がよく素敵だと思います。それ以外では、雪の大谷。だけど、開催期間が決まっている。だから三つ星をもらえないのです。例えば、三つ星があるから、富山に行こうという人、日本に行ったら富山まで行きましょうと。その観光客のために、富山県は観光客が期待しているよりいろんなものを与える必要があると思うのです。それが、まず、話に出たのですが、バイリンガルガイドです。バイリンガルガイドはとても大切だと思う。もし、バイリンガルガイドが大変であれば電子ガイドです。博物館、美術館で使える電子ガイドを入口で借りて出口のところで返す。深く歴史を知ることができ、それで面白くなるんです。例えば、どうしてこれを作って、何人の命が亡くなったとか、とても興味深いのです。僕はアルペンルートへ今日だけではなく５月にも行ってきましたが、日本語がトイレや列車で流れていますが、日本語しか流れていない。外国人に知らせることが大切だと思う。

あと、今日気がついたのですが、スイスの山へ行くと、ほとんど海のものが食べられない。野菜も少ない。でも、今日室堂に行ったら、海のものも野菜も食べられる。ほとんどの他の国では山が海から遠い。それをPRしないといけないと思う。デジタルサイネージ企画はよいことだと思います。

議論しなければならないと思っているのは、石井さんからお話のあったツェルマットでは、行くと皆ほとんど一週間は泊まる。では富山で一週間泊まる観光客が来るかどうか。たぶんそんなに来ない。一日体験か、せいぜい一泊。それを一泊二日や二泊三日のプログラムを作って案内し、観光客に判断は任せるんですが、一泊、二泊、三泊まで延ばすようなプログラムの議論をし、広告すれば、人はそれを参考にして来るんです。二泊ならこんなことができる、三泊ならこんなことができると。

最終的に僕が言いたいのは、ツェルマットと比べることはないですが、富山にも喫茶など色々あり、スイス全体、ヨーロッパ全体、フランスもそうですけど、ほとんど山に行くと、内装が、レストランにしろ、ホテルにしろ、壁が全部木でできているんです。日本も木をよく使う国なのに、その雰囲気を作らない。僕のアドバイスとして、全体に木を使えばすぐ雰囲気が出てより良くなるんです。

色々プロジェクトがあるんですが、方向性としてだいたい合っていると思いますので、プロジェクトを深く議論して現実まで続けてください。以上です。

【西村座長】

今のお話で体験型とバイリンガルガイドとありました。山田（拓）委員は、具体的に実際やっておられるわけですが、何かコメントありますか。

【山田（拓）委員】

また次の、３つ目のクリアな議題もあるので、今の現状に関する全体的な感想と言いますか、気づいたところをちょっとだけお話しできればと思います。

私も昨日、今日とご案内いただきまして、個人的には家族でも行ったことも、過去５年、両方行ったことあるんですが、改めて行って、この地域のことを、もう一回、実際世界に打ち出していくために、どういう地域なのかを改めてみたんですが、今回この環境省の満喫プロジェクト全体でもそう思うのですが、国立公園を、今まで保全ありきだったのが活用の方に軸足を振るのはものすごく大きな展開だと思うんですが、全体的に何のために開放するのかというところの議論がなくて、各論に入っていくようなところが若干あるのが僕自身気になるところです。中でも、僕自身、昨日欅平まで行って、今日室堂まで行って、両方感じたことは、ものすごく時間がかかる割には行った先でできることが非常に限定的だというところがすごくネックじゃないかと。すごくすばらしいところではあるんですが、実際に一般の旅行者からみたら、当然そのターゲットが誰かを決めなきゃいけないんですが、かかる時間の割にはできることが少ないというところが、ブランド化ということはターゲットマーケットに対して価値を提案していくところですが、提案できる価値が非常に限定的じゃないかと感じました。今の中で、つなぐ議論が非常に重要な議論で、できるならば進めてもらいたいと思うんですが、ただ、それができたことによってつながって、今まで、長野県に下りていた人が富山に戻ってくるというのは、すごくこちら側としては魅力的なことだと思いますが、実際、どう滞在するのかいまいちイメージができていない。室堂の宿泊キャパも限られていると、つないだところで、信濃大町でしたか、長野県側には93分で下りられるけど、多分つないで宇奈月までだと結構時間がかかる。旅行者視点で見た時に、どのルートを使うかは多分一部でしかないんじゃないかと。そうしたら、全体の価値提案というものがどこまでできるのかということをもう少し広い視野で考えて、世界に立山黒部を売っていくためにどういう価値が提案できるのか、もう少し広い視野で見る必要があると、昨日、今日で改めて感じました。以上です。

【西村座長】

ありがとうございます。保全と活用の問題ですけれども、吉田委員に、自然保護という立場からご意見いただければ。

【吉田委員】

まず、以前この会議に出られなかったものですから構造がよくわかっていないのですが、資料４でプロジェクトの進捗状況を先にやって、資料５にブランドコンセプトが書いてある。普通は、ブランドコンセプトを決めてからプロジェクトが進むのだと思うんですが、プロジェクトが先に進んでいるというのがよくわからない。今後、ブランドコンセプトによってプロジェクトが変わっていく可能性があるということもあるんでしょうか。

次に意見を申し上げると、ブランドコンセプトの一番最初のキーワードに出てくる、「マウンテン／山岳／立山信仰」というところが非常に重要だと思います。立山が他の地域の山岳地帯、国立公園等と違うのは、富士山と並ぶ山岳信仰の聖地として非常に重要な位置付けを持っているというところだと思います。世界遺産条約では、自然と文化を別々に考えるのではなく、つながりのあるものとして考えようということがテーマになっています。筑波大学でもアジア太平洋の方たちを呼んできてディスカッションしています。最初のテーマは、人と自然の関係のうち農業景観ということで、昨年は、五箇山白川郷から能登に行って、能登から立山を見るということができました。今年は、神聖なる景観というテーマで、山岳信仰の対象になっている

紀伊山地の霊場と参詣道に行きました。山岳信仰は日本独特の要素もありますが、歩くということはユニバーサルなところがありまして、高野山でも熊野や吉野でもたくさんの外国人の方が歩いているんです。立山でも歩くということを大事にした観光を考えることが大事ではないかと思います。プロジェクトを拝見すると、交通機関を便利な方に持っていこうというインフラ中心です。ぜひ世界全体の中、日本全体の中の立山の位置づけということからすれば、山岳信仰を大事にして、そして芦峅寺の博物館等を活用して山岳信仰を理解した上で歩くということを、日本人だけではなく、外国の方にも体験していただくことが、プロジェクトとして入ってきてもいいのではないかと思っております。

【西村座長】

ご指摘があって資料が後付けでついているというところが構造として見えてしまうんですが、この後ご説明いただくので、この議論を続けたいと思います。資料４に関しまして、資料５を説明いただいた後、それを総括して、資料の中身に入ってよろしいでしょうか。

（３）ブランドコンセプト（案）について

【西村座長】

それでは少し押していますが、資料５の説明を事務局からお願いしたいと思います。

（事務局より資料５に基づき説明）

【西村座長】

ありがとうございます。今日は内容が盛りだくさんで、お約束した時間が６時で、時間もあまりなくなってきましたので、少し延長させていただきたいと思います。もし、ご予定がある方は退席されて構いませんので、申し訳ございませんが、少し延長させてください。

前回の会議で、ブランドコンセプトをきちんと立てるべきだという意見があったので、事務局に作業していただきました。この点に関しては、まずは、地元の富山の委員の皆様にこれでよいのかという辺りをそれぞれご発言いただいて、それで議論を進めたいと思いますが、よろしいでしょうか。では、まずはDMOでやっておられる会長でもあります髙木委員からいただけますでしょうか。

【髙木委員】

他の地区と比べてあまりにも魅力が多すぎるので、資料の15ページのようになっているんだろうと思います。これをどのように絞り込んで、そして、メインコンセプトとそれを支えるサブコンセプトに切り分けていくかは今後の課題だろうと思います。そこで、冒頭、知事がご挨拶でおっしゃられましたが、ブラタモリさん、いろんな反響があったと思うんですが、ＮＨＫさんにお伺いして、国、日本全体から見た魅力はどういうことかもお聞きして、外の目も意識しながら絞り込んでいくと上手くいくのではないかと。それから、さっきモンテベルデさんがおっしゃられたように、山でありながら刺身も美味しく野菜も豊富というところは他にはないんです。立山で美味しい刺身とサラダを食べたいという人も中にはいるかもしれないんで、そ

ういうところも入れていったり。最後に、やっぱりここにしかないものは何かということです。黒部ダムの血のにじむような開発、そして、産業遺産、それから防災、こういうものはおそらく他にはないので、こういうところをキーに少し絞り込んでいったらよいかと思います。以上です。

【西村座長】

ちょうど地元の委員の方が出席されていますので、次は佐伯委員にお願いいたします。

【佐伯（博）委員】

立山黒部貫光の佐伯でございます。今日は、あまり天気が良くない中、室堂まで皆さんにお越しいただいてありがとうございます。今ほどのお話でございますが、この中に、ほとんど、網羅されているようでございますけれども、私どもアルペンルートというのは、昭和46年６月１日に全線開通をいたしまして、46年ほど経過して、もうすぐ50年目を迎える時期になっている訳ですが、会社としては、自然の中にこういったルートを作ったということで、会社の一番の使命は、この自然をいかに守っていくか、そして、立山の環境をどう守っていくか、これが大きな使命でもあります。また、ああいった雪の多い、また、気候の変化も激しいとこでございますので、お客様の安全確保もしっかりとやる必要がある。また、うちの会社としましては、地元なり、富山県の地域にどう貢献していくかという使命を持ちながらやってきた訳でございます。これからも当然、こういったことをしっかりと守っていく必要がある訳ですが、これに加えて、今後、どうこの自然と共生しながら、アルペンルートをこれから推し進めていくのか。いろんな乗り物もありますが、こういったものも、今後、どういうふうにやっていけばいいのか。特に現在、高原バスあたりも、富山県にちゃんとした規制をしていただいて、排気ガスもきちんと対応してはおりますが、これからやはり、乗り物においても、例えば、電気バスとかいろんな乗り物にどうこれから対応していくかということももちろん出てきますし、そういった中で、今後、アルペンルートをこれからどのような姿にしていけばよいのかということは、やはり大きなこれからの宿題でもありますので、今、この中で色々と協議しながら、この先、20年先、50年先に向けて、このアルペンルートというものをいかに守っていくか。

それと、先ほど、吉田委員さんも言われたように、やはり、この山岳信仰というものをこれから非常に大事にしていく必要がありますし、今は３年に１回ということで布橋灌頂会をやっておりますが、この他に、地元には信仰に関連したいろんな行事があります。そういったものは、だんだん廃れていく傾向にありますので、そういったものをどう守っていくかということもあわせて、この山の上だけではなく、麓も踏まえた中で、色々とこれからやっていく必要があるのではないかと思っております。また、山の上ではなかなか、宿泊の設備も厳しいところもありますので、例えば、立山山麓あたりに基地を設けて、そこで、また、泊まって、立山に上がって、皆さんの楽しみ方をやっていただく。そのためにはやはり、山でいろんな楽しみ方を考えていく必要もありますので、そういったことも含めた中で、これから色々もっともっと研究していく必要があるんじゃないかと思っております。そういった中で、このブランドコンセプトが、それに類していくものを色々と作り上げていく必要があるんじゃないかと思います。

【西村座長】

ありがとうございます。佐伯千尋委員、よろしくお願いします。

【佐伯（千）委員】

話したいことは結構たくさんあるんですが、まず最初に、キーワードがすごくたくさん出ています。それだけ確かにたくさんの魅力があるからこそ、こういうものが出てくる。しかしながらよく考えますと、もともと自然から出ているんです。立山信仰も、実は地獄信仰です。ということは、今の地獄谷の火山に由来しているんです。それからもう一つは、黒部ダム、色々言いますけれども、雪が多いとか、水が豊富とか、降水量がそういう自然から出てきて、当然のことながらそこにあるということなんです。

それで考えますに、自然が主じゃないかと。自然を理解するには何が一番よいかというと、吉田委員もおっしゃられましたが、歩くということを皆さん忘れてるんじゃないかと。先ほどの関電さんの議論を聞きますと、通すことばかり考えていて歩くことを全然考えていない。ただ、通っていけばそれでいいのかと言いたくなるぐらいの論議なんです。そこに何があるのかということが大事じゃないかと私は思うんです。産業で関電さんがいろんな苦労をされたものがある。そういうものはいろんなところにあります。そこを通らなくてもちゃんとある。黒部ダムを見ただけで、これはすごい、すごいものを作っていると、それで十分じゃないかと私は言いたい。その下に、今、オープンされていますが、旧日電歩道があります。これはすごく歩くところ、登山道で、ものすごく人気があります。年に１ヶ月しか開通しませんが、それくらいに素晴らしいところです。その開通を待ちわびている人もおられるんです。そこから歩いていきますと、黒部峡谷の素晴らしい一番すごいところがずっと見られます。最後に、関電さんが掘りました最後の黒四発電所の送電所の出口が見えます。それで十分じゃないかと思うんです。何事もすべて乗り物に乗ってみなきゃいけないということは私はないと思う。歩くからこそ味わえる、いろんなものが見える、苦労の末に見えるというものがあると思うんです。そういういろんな場所があります。黒四周辺に限らず、登山道はいっぱいあります。剱に行ったら剱のいろんなところがありますし、弥陀ヶ原のラムサール、これも歩けば素晴らしいところだと思います。今日歩きましたが、そういうものを基本に置くべきじゃないかと。見ていますと、大事なものを壊してまでロープウェイを架けなきゃいけないのかという気になってきます。これ以上はもういいんじゃないかと私は地元にいる立場から考えます。

ここに言いたいことは沢山あるんですが、一つは、上質なホテルとか色々出てきていますが、スイスの例、一番左のグリムホテルですか、これは3,000mぐらいのところにある。立山では室堂ぐらいなのかなと私は思っている。室堂にはホテル立山がある。30,000円ならホテル立山も30,000円じゃないですか。中身はもっと立派です。今日、中に入ってみられたらすごかったですよね、すごい施設を持っています。また、この下のリッフェルアルプ・リゾートはすごい山麓の施設です。ここで言うと立山駅周辺のことを指すんじゃないですか。その辺は、スイスのツェルマットにすればいいんじゃないかという考えなんだと思います。場所によると思うんです。だから、例えば、室堂ならば、歩くものを中心にしなきゃいけないと私は思う。もっともっと山麓の方に深みのあるすごいものを作りたいというのはもちろん分かりますし、そういう広がりがない。なぜかしら全て室堂に集まってしまっているというのが現状です。そういうものをもっと幅を持たせてあげたい。立山町さんは頑張られて弥陀ヶ原の方にラムサールの湿地の規約を作られたり色々やっておられます。私は素晴らしいことだと思います。そういう方向

性をもっと伸ばしていくべきじゃないか。

長くなりましたが、最後に一言だけ。私どもの意見書に書いてありますので、ご覧になっていただき、いわゆる冬期の営業はかなり厳しいんじゃないか等、いろんな問題点をここに書いております。佐々木泉さんの意見もここに書いてあります。佐々木泉さんというのは、富山県県警の山岳救助隊の隊長をやっておられ、民間の山岳救助のトップの方です。こういう形で意見を書いておりますので、これらも見ていただければと。うちの組合の有志で書きましたものも読んでいただければと思います。以上です。

【西村座長】

ありがとうございます。それでは小橋委員。

【小橋委員】

昨日は天気があまりよくない中、黒部峡谷に皆さんお越しいただきましてありがとうございました。先ほど、山田先生から、時間の割には遊ぶ場所が少ないと。そういうことを何とか改善すべく、皆で力を合わせて、それこそ連携しながら頑張っていこうと思っています。ブランドの話につきましては、黒部峡谷というところは、大自然のところ、歴史のところ、今年は黒部川開発100年という年でございまして、そういうところが挙げられていてありがたいと思っています。私、こないだのブラタモリの竹内先生のチョコレートの実験を見させていただき、それで立山連峰と黒部峡谷のでき方を、こういう形でできるんだと、アルペンルートとうちが同じこの地球上の動きの中ですぐそばでできたものなんだと改めて感じましたし、だから、そういった意味では、立山黒部を本当の意味で味わっていただくためには、アルペン、そして、黒部峡谷をセットでお客様に見ていただきたいと改めて思いました。そういった意味では、コンセプトの中の最後の方にあります地域の連携、そして、関係者一体というところが大変大事だと。我々も一生懸命その中に入って頑張っていかなあかんなと思いました。以上でございます。

【西村座長】

ありがとうございます。鍛治委員お願いします。

【鍛治委員】

ブランドコンセプトについて、特に異論はありません。自然も人間も多様なので、こういう盛りだくさんで出てきたんだと思います。一つだけあるのは、こういうものを一体化していくにあたって、立山を考える場合、ツェルマットなんかと違うのは、ジャスパーとかシャモニーもそうですが、タウンサイト、通年、人が住んでいるタウンサイトとセットになって一つの山岳リゾートができあがっている。これを、今の限られた、今日ケーブルカーに乗った場所から上だけで完結といった、同じようなものを作ろうとすると無理だと私は思う。ですから、長期滞在とか、あそこ行っても何にもやることないとか、しょうがないんです。場所については、そんなに多様性がある訳ではないので、そのポイントに適した活動というのがあるので、全体として多様なものができるということを考えていけばいいと。日本にはタウンサイトと一体となった山岳リゾートというのはないじゃないんでしょうか。しいて言えば白馬ぐらいがそういう気がしますけれども。よいところは取り入れて、違いを押さえて、できないものはできない

と考えていったらよいと思います。

【西村座長】

ありがとうございます。黒部市の堀内市長、ご発言をいただきたく。

【堀内オブザーバー】

手短に２点ほど。まず、立山黒部の魅力というのは、アプローチが一番近いということが最大の魅力ではないかと思っております。その結果、実は、遭難が世界で一番多い山は、日本に２つあります、世界で一番多いのは、谷川岳、一つの山での遭難事故ですが、その次は剱なんです。それだけ、アプローチが便利で危険ということもあって、そういう意味では、安全対策を何もしないというのはいかがなものかと思います。今日あたりは10度以下ですよ。一人で外国人の方が来られたりすると、かなり服装や足元等が、非常に簡易なもので来ておられて、実は、昨年あたりも、こんなことが起きるのかということが欅平で起きました。柵の外に出て、あの崖のところでＳＮＳの写真を撮って送り、その結果、滑落されました。それで、責任を問われました。あるいは、パノラマ展望コースでも、昨日見られたところから先は登山道です。滑ります。事故は必ず起きます。その結果、誰が責任をとるのかということもしっかりと考えておかなければならない。

そういう意味では、先ほど、黒部ルートの商品化の話もありました。私は、少しずつ前進していることについては、大変うれしく思います。そこで、今の意見というか、議論の状況を見ておりますと、どうしても意見のぶつかりあいの状況がございますので、もう少し胸襟を開いて、パノラマ展望コースをやったときのように、関電さんからの提案を受けて、県や市の方で協力しながら連携してあのコースを開いた訳ですから、もう少し胸襟を開いて、信頼関係を持って進めていかなければ、事故が起きるというのは、必ず起きると私は思います。それだけの場所だと思いますので。最低限どこまでするのか、誰が責任、役割を果たすのかということを、もう少し胸襟を開いた議論が必要と思いましたので、その点よろしくお願いいたします。

【西村座長】

ありがとうございます。時間がかなりオーバーしてまいりましたが、ブランドコンセプトが必要だというご意見は、今日テレビ会議で出席していただいている伊達委員から指摘されたものです。ここまでのご議論を聞かれて、何かコメントがあればと思いますが、伊達委員いかがでしょう。

【伊達委員】

ありがとうございます。ブランドコンセプトが必要というお話をして、こういう形でまとめていただいてありがとうございます。２枚ものの資料が私のほうにはありますけれども、皆さんの手元にはございますでしょうか。２枚ものの２ページ目のところに、全体のことが凝縮されていると思うんですが、こちらを見ながら話をさせていただきます。

まず、ブランドコンセプトを考える前に本当にやっていただきたいのは、哲学とビジョンを考えてもらいたいということです。では、同じ思いを持てる哲学って何かということですが、この資料を見る限り、たぶん一番の共通というのは「世界水準の観光地を目指す」ということ

だと思うんです。それが違ったら、これ以上話はできないんですが、例えば、世界水準でも日本水準でもなく、富山県水準、室堂水準だということであれば、それは、どっちが上とか下とかではなくて、誰をターゲットにしているかで答えは変わるということで、何を目指すのかというのを共通の哲学として持っていただきたいと思うんです。「世界水準の観光地を目指す」というのは共通の哲学に近いと思ってよろしいんですね。

【石井知事】

はい。

【伊達委員】

地元の方を含めて、皆さんが思っていることを確認するというのが一番重要だと思うんですね。今、この場で答えていただかなくていいのですが、仮にそうだとすると、世界水準の観光地を目指す以上、安全確保は当たり前のことです。どんな場所だって、何だって、危険の度合いに違いはありますが、何か安全確保をしなければ観光客を守ることができないので、地域としての安全性の担保が存在しない。そういう意味で、安全確保は当然で、その確保のあり方が、その地域によって独特の事情があるだろうなと。

もう一つは、利用者の目線に立たなければ、観光客が来るはずがない。利用者の目線に立つとは何かということだと思うんです。世界水準の観光地ということは、世界の遠くから、ヨーロッパから来ていただきたい訳で、ヨーロッパの方は、何時間もかけてここまでいらっしゃる訳ですが、なぜその人はわざわざ立山までくるのか、何を求めているのか、何が彼らの旅行のニーズなのか、という方が重要なんですよね。今、ブランディングコンセプトの要素となるキーワード５つは、合っている間違っているではなくて、文脈を見てると、自分たちが言いたいことが中心なんですね。それに対して、来たい、要はプロダクトアウトという言い方になりますが、これだけ良いものがあるから、これを使えば、相手は喜ぶに違いないというのが今回のやり方なんです。それに対して、ターゲットとなる人は何を求めているかな、どんな風景、体験に感動するのかなという発想で物事を考えるのが、マーケットインだと思うんです。そういう視点で、物事を考えないといけないんじゃないかと思いました。よって、それを考えるために、哲学が世界水準、だから中身としてはなんだろうかと考えないといけない。私は、今この瞬間に思うのは、やっぱり感動を与えるってことだと思いますね。何か感動があるからわざわざ、もしかしたら24時間かかるかもしれないですけれども、それでも行こうと思うものが何か、それは来たら分かるではだめで、こういう感動があるだろうという期待させる何かのメッセージを与えなければ、それは来ないと思いますね。そういうものをエージェントさんにも伝えなければ、その先のお客さんを見つけてきてくれない訳ですから。そうなると、凝縮された感動で一番、心を打つようなメッセージは何かを絞り込めないと、それは伝わらないですね。今、たくさん素材がありますと、でもその素材を全部聞いてくれる人なんていないので、ではそれをどれに絞り込みますかということだと思うんです、まず伝えるメッセージは。今回、皆さん視察されて、私も行きたかったのですが、この５つの要素に近いお話を聞きながら見学されたと思うんですけれども、私がお聞きしたいのは、どれに一番感動したか、どれをわざわざ自分の携帯で写真を撮ろうと思ったか、聞いた話の中でどれを自分のSNSでたくさんの人に伝えたいと思ったか。50文字以内で。それがどれかというのが重要じゃないかと思います。

もう一つの視点が、先ほどスイスを見学されてどう思いましたかに対する答えが、心地よかったとおっしゃったんですね。すごく重要だと思うんですね。満足するというのは、期待通り感動、またはそれ以上の感動だったことと、ストレスなく心地よく過ごせたということだと思うんです。ではそこでまた聞きたいのは、今回皆さんが見て滞在したときに、外部の視点から、心地よくなかったことはどこだったのかというのを教えていただきたいと思います。私は、自分が見に行ったら、実はそういうところを見るんですね。例えば、トイレだとか、街並みのちょっとしたところが汚いと思うとか、そういったものは、そういうものが旅行者の目から、何も見えないようになっていることが望ましいと、それがランドスケープであったり、景観というものに対する意識だと思うんです。まずそれをしっかりと押さえるということが、私は重要だと思います。その上で、エコの話だと思うんですね。エコだけ言っても、エコだからこの場所に行こうとは思わないです。でも、来てみて心地よくて、さらにエコに感じられて、地域の人が、本当にきれいにしよう、自然というものを守ろうとしている地元の人たちの精神のようなものに触れてから、それが感動につながるんです。それをすべてトータルで考えないと、そこまでたどり着けないんで、そういうことも考えた上で、では先ほど言った、哲学に対してビジョンは何と自分たちは定めるかということで、その構成にまず、共通点を見出していただいた上で、その一つひとつのストーリーをどんな形で仕上げていくかを皆さんで今回決めることですけれども、ビジョンや哲学にすべてつながっていくのかというところまで持っていって初めて、ブランド化というのはされるんじゃないかと思います。

【西村座長】

ありがとうございます。重要な視点で、役人が一番不得意なところかもしれません。時間がかなりオーバーしてまいりましたので、最後のご発言を田村長官にお願いしたいと思います。

【田村委員】

ブランドコンセプトが必要と言われたご本人の話は一番説得力がある。私も、県の説明を聞いていて、少しプロダクトアウトな気がしました。自分たちが何がいいと思っているかということを中心に今、話ができあがっているというところですが、これを今、地元の方々のお話を伺いますと、いろんな考え方があります。ブランドコンセプトというのは、地元の中で徹底的に議論して作らなければならないものだと思いますので、これは、こういう会議のほかにも、もっと徹底的に議論していかれるとよいと思います。それから、取組みの方向性というのは、ブランドコンセプトとくっつけて書かれていますけど、そもそも、いろんなプロジェクトが進んでいるのは、この取組みの方向性があるからやっている訳で、これはそれに関わらず、一応、この場では皆に共有されいるものだと考えていますので、どんどん進めていただければ良いのかなという気がいたしております。

最後に１点、関電ルートの話は、関電さんも色々、鉄道局の技術陣と相談しながら、安全対策みたいなものは提示されています。ただ、全部やらなきゃいけないという話ではないかもしれないので、そこも含めて、よく県さんと関電さんの間で、先ほどどなたかが、胸襟開いて話をしろとおっしゃられましたが、まさにそういうことなんじゃないかという感じがいたしております。以上でございます。

【西村座長】

ありがとうございます。時間が30分ほどオーバーしておりますので、この辺で閉めてよろしいでしょうか。ご発言がなかった方、申し訳ございません。それでは、石井知事に、最後、一言いただければと思います。

【石井知事】

はい。一言では済まないかと思いますが、まず、コンセプトの話は、大変貴重なご意見をいただきありがとうございます。それから、歩くことが大事だという話もよく分かりますし、安全対策は当然やらなきゃいけないことで。ただ、同時に、田村委員が冒頭言われたように、多様なニーズにどうしっかり応えていくかということで、何kmも歩いて、それ自身が楽しいという人もいらっしゃれば、歩くことも大事なことだけれども、それ以外の時間の制約とかでもう少し利便性の高いものを求める方が多数いらっしゃることも事実ですから、そういったことをよく考えて進めていかなきゃいかんのでないかと思っております。

それから、月山さんに確認ですが、今の関電ルートの話、胸襟を開いてお話をと思い、念のために今日の議論だけ整理しておきますと、私たちがお願いしているのは、先ほど担当課長が申し上げたとおり、資料４の９ページで、見学者枠とか見学会の土日祝日実施とか、公募抽選ではなくて予約先着とか、それからあと④もありますが、鉄道事業課長さんの見解では、鉄道事業法の適用はないということだとすると、少なくとも資料４の９ページの①から③までは、その気になれば来年からでもできるんではないかと。人数をどこまで増やすかということはありますし、社客枠もある程度確保したいともおっしゃっていますから、そういうことじゃないかと。また、その場合も、資料の21ページにありますように、今と同じように、例えば、電気事業への理解促進のためにここを開放するんですとか、あるいは、安全確保のためのヘルメットを着用してもらうとか、あるいは、案内人の指示に従えない場合は参加をお断わりするとか、こういう今の公募見学会と同じことはきちんとやるということになると、私は、20年無事故でやってこられたんだから、来年すぐにでも対応できるんじゃないかと。あるいは、もちろん、実は、今回、安全対策のためにもう一回点検したら、すごく心配なところがあったということが本当にあるんだったら、それは今までどおりのやり方でも、今の公募見学会でも社客を通すのでも必要なことだから、これはすぐにでもやらなければならないことのはずなので、もし、そういうものが仮にあるなら、関電さんの責任で対応しなきゃならないと思うんですが、ぜひ、いたずらに時間がかかると困りますんで。月山さん、ぜひ、この①から③のこういったところ、人数の問題とか土日実施とか先着順とか、こういったことは私は安全の話とは関わりがないと思うんで、ぜひ一つ前向きに考えていていただければと思うんです。よろしくお願いします。今後、胸襟を開いて話すのは、そこはよろしくお願いいたします。

【月山委員代理】

少しよろしいでしょうか。コメントいただきましてありがとうございます。ぜひ、今おっしゃられたようなことを含めて、事務局としっかり議論してまいりたいと思います。先ほどの鉄道事業課長のコメントについての、私どもの受け止め方でございます。鉄道事業課長がおっしゃいましたのは、第１種鉄道事業の許可はいらないということを明確にしていただいたということで、これはすごくありがたいことかと思います。具体的にどういうふうに安全対策につな

がっているかと言いますと、先ほど申し上げました平成８年、９年の800億、15年、16年という対策、あれが第１種鉄道事業の適応をするときに必要となる対策工事の中身でございます。ですから、そこまでは必要ないということを鉄道事業課長がおっしゃっていただいたのかと思います。じゃあ、逆に、何もしなくてよいのかというと、私どもは、これは別の話かと思っておりまして、先ほど申しましたように、全体として旅行商品化、有償でするならば、何らかの対策は必要と思っているところでございますので、その点をご相談させていただきたいと思っていますし、じゃあ手前らは何もしないのかというと、その点についても、事務局としっかりご相談していきたいと思います。

【石井知事】

来年すぐにやれる話と少し時間のかかる話をよく相談していきたいと。

【西村座長】

よろしいでしょうか。それでは、意見交換をここまでとさせていただきたいと思います。

以上